

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
(教育目標) 心豊かで 自ら考え 学び合う 勝加茂っ子の育成 (めざす児童像) ・進んで考える子 ・思いやりのある子 ・最後までがんばる子 (指導の重点) ○確かな学力の向上『まなぶ』 ○豊かな心の育成『そだつ』 ○健康・体力作りの推進『つくる』 ○かかわり合う学校作り『ひろく』	□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 C 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
全国学力・学習状況調査より ○国語Aについては県平均正答率を上回っている。 ○国語B・算数AB・理科については県平均正答率とほぼ同じ。 ○理科において、回路の意味についての理解が課題である。 県学力・学習状況調査より ○国語の漢字を読む・漢字を書くの正答率は県平均より高い傾向にある。 ○算数の基本的な計算問題の正答率は県平均より高い傾向にある。 ○国語における場面の様子や文章の内容の読み取りについては課題がある。	【5年】 ○近所の人に会ったときにあいさつをしている児童が県平均を上回っている。 ○授業中に自分の考えを発表する機会が与えられていると感じている児童の割合が高い。 ○自分の将来のために勉強をすることが大切だと感じている児童が県平均を上回っている。 ○人が困っていたら進んで助けようという意識の高い児童の割合が高い。 ○テレビ等の視聴時間についてはほぼ県平均と同じ。 【6年】 ○先生に認められていると感じている児童の割合がとて高い。 ○家庭での学習時間をしっかりと、予習や復習を行っている児童の割合が高い。 ○地域の行事に積極的に関わっている児童の割合が高い。 ○算数の授業が好きで授業の内容がわかると考えている児童の割合が高い。 ○読書をしている時間が短い児童が多い。

成果	課題
○算数の授業づくりについての研究を行い、自分の考えを持ち表現する力を育む指導を行っている。 ○学校のきまりを守ろうとする規範意識は高い。 ○6年生は説明文や物語の内容を読み取る力がついている。 ○6年生は図形の定義や性質を正しくおさえている。 ○5年生は漢字の書き取りや基礎的な計算問題を解く力がついている。 ○4年生は漢字の書き取りやかけ算の計算問題を解く力がついている。 ○3年生は漢字の読み書きやたし算・ひき算・かけ算の計算力がついている。	○平日の読書時間がやや少ない。 ○メディアに関わる時間が長い児童が見られる。 ○4年・6年は基礎的・基本的学習の定着が見られるが、3年・5年は基礎的・基本的学習の定着が不十分な児童が見られる。 ○国語・算数ともに活用型の問題を苦手としている。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
・本を読む機会を大切にする。	・読書量について年度末に。	・全学年、本を読むことを進んで行う。	・読書週間の実施 ・図書委員会の活動促進や本読みカードの活用 ・朝読書の時間や読みきかせボランティアの活用	・図書委員会を中心にPTAも協力して読書週間を実施し進んで読書に取り組むことができた。 ・毎週木曜日の朝、朝読書や読み聞かせを行うことができた。	A			
・算数における基礎学力が定着する。	・学期ごとに算数の定着度を見ていく。	全学年、基本的な計算ができるようになり、四則計算の仕方や利用ができる。	・朝学習の時間に繰り返して計算問題や文章問題に取り組む。 ・学習後等に問題データベースを利用して適宜学習のふり返しを行う。	・毎週水曜日の朝、算数の学習に取り組む基礎学習の定着につなげることができた。 ・学習のふり返しにいろいろな適宜問題を補充することができた。	A			
・家庭学習の定着と充実	・家庭学習の状況について学期ごとに。	・全学年が、家庭での学習の課題を進んで行う。	・家庭学習の手引きの配布。 ・自主学習の様子を各学年ごとに廊下に掲示して交流。 ・家庭での学習の様子を学校だよりや学級通信で家庭に知らせる。	・家庭学習の定着に向けて自主学習の様子を掲示し児童の意識向上につなげることができた。 ・学習の様子を通信等で家庭に知らせている。	A			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善の取組み ○家庭学習の手引きの共有化 ○「ノーマディアにチャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家族で見直す機会を作る。(勝北中ブロックで同期間に取り組み) ○①靴揃え②チャイム着席(教職員も、チャイムに始まり、チャイムに終わらせる)	○家庭学習の手引きをもとに学級懇談や個人懇談などで呼びかける。 ○ノーマディアの取り組みを勝北地区全体でノーマディア週間として学期ごとに家庭と協力して行う。 ○携帯電話の使い方について家庭でしっかり管理して使用するよう呼びかける。